

研究主題

学びを実生活に活かす授業づくり
～子どもの次のステージを想像して～

1 主題設定の理由

本研究グループの児童生徒は、千厩小学校・千厩中学校各校内に学びの場がある児童生徒たちである。小学部(ハピきら)を卒業した児童は中学部(みなトモ)へ進学し、みなトモを卒業した生徒は本校舎高等部または他校へ進学するケースが多い。そのような流れの中、学びの連続性が途切れてしまわないよう、また、児童生徒がこれからの生活においてより主体的に取り組むことができるために、それぞれの次のステージ(小学部では中学部での生活を想定、中学部では小学部で培った力を伸ばしながら高等部での生活を想定)でどんな力を身に付けるか、一人一人の実態をあらためて把握し、今ある姿と目指す姿を共通理解して、児童生徒の可能性をさらに広げる意義のある授業実践を目指していきたい。

また、千厩分教室では「児童生徒が興味や関心を持ち、意欲的かつ主体的に授業に取り組むこと」が「一人一人の豊かな学びにつながる授業」に通じ、さらには「学びを実生活に活かす授業」であると仮説を立てた。2年次には、普通の授業や研究授業を通して、この仮説を検証していきたい。

2 推進計画

月 日	研究活動	内 容
4月20日	第1回全校研究会	
5月27日	学部研究会	1年次目の取り組みの確認と、研究方針や内容の検討
6月27日	グループ研究会①	研究授業に向けて 実施教科・指導案検討
7月4日	グループ研究会②	研究授業に向けて 実施教科・指導案検討
8月10～31日	学部研修会	第64回全国病弱虚弱教育研究連盟研究協議会並びに総会(福岡大会) 第63回九州地区病弱虚弱教育研究連盟研究協議会並びに総会(福岡大会) オンデマンド視聴 アンケート回答
9月8日	みなトモ研究授業	千厩分教室中学部 体育「ダンス」 授業者 小林蒼平
9月28日	ハピきら研究授業	千厩分教室小学部 体育「風船バレーボール」授業者 皆川桂輔
10月25日	授業研究会	「見る・聞く・話す」、「振り返り」の設定した授業提案 ハピきら「達成感を味わう場面の設定」みなトモ「教師の支援の工夫」
11月16日	グループ研究会③	グループ毎まとめ
12月19日	個人研修	学部研究まとめアンケート回答
1月23日	グループ研究会④	実践報告、全校研究会に向けて 全校研発表内容の検討・確認
2月20日	第2回全校研究会	

3 千厩分教室における、めざす「豊かな学び」の姿

2020年代を通じて実現すべき「令和の日本型学校教育」の姿として①個別最適な学び②協働的な学びとして、それぞれの学びを一体的に充実し「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげる。と打ち出している。(中央教育審議会答申 令和3年1月26日)

千厩分教室小学部(ハピきら)・中学部(みなトモ)では、「今日の授業では何をするのか」と想像力を働かせたり、「おもしろそうだな」と興味や関心をもったり、授業の中で自ら発言したり、準備や片付けを教師に言われなくても積極的に行ったり、授業の中で自分が必要とされている、役にたっていると自覚できたりすることが「豊かな学びの姿」

であるとする。つまり、「豊かな学び」とは、「児童生徒が興味や関心を持ち、意欲的かつ主体的に授業に取り組むこと」と位置づけた。

4 1年次目の研究概要

(1) 実態把握と身に付けたい力

個々の実態を把握し、身に付けたい力・目指す姿についてアンケートを実施し、結果を共有した。『学びを生活に活かす』ことについては、児童が今もっている知識や能力に、新しく学習した知識や身に付けたことを結び付たり、つなげたりすることで場面が変わっても表出できるようになると考えた。

担任を中心に個々の実態をあげてもらいまとめた結果、コミュニケーションに関わること、身辺自立や体の使い方など、課題と思われることが多く挙げられた。そのような中で共通して考えられた課題は、他者と関わるとき態度(聞く、話す等)についてであった。

☆身に付けたい力、目指す姿の共有(アンケートの結果)(小学部ハビきら) ★身に付けたい力、目指す姿の共有(アンケートの結果)(中学部みなトモ)

- ・「見る」「聞く」「話す(伝える)」力
- ・困ったときに発信できる力

- ・あいさつ
- ・集団に参加し、共に活動する力
- ・人と関わろうとする力、関われる力
- ・きまり、ルールを知る、理解する、守る力
- ・集団を意識した行動、周囲に合わせる力

- ・自分にできることに向き合って活動に参加したり、取り組んだりすること
- ・(支援を受けつつも)自分でやろうとすること
- ・自分で考えて行動すること

- ・一人でできることを増やす
- ・身辺自立、自分のことは自分でできる

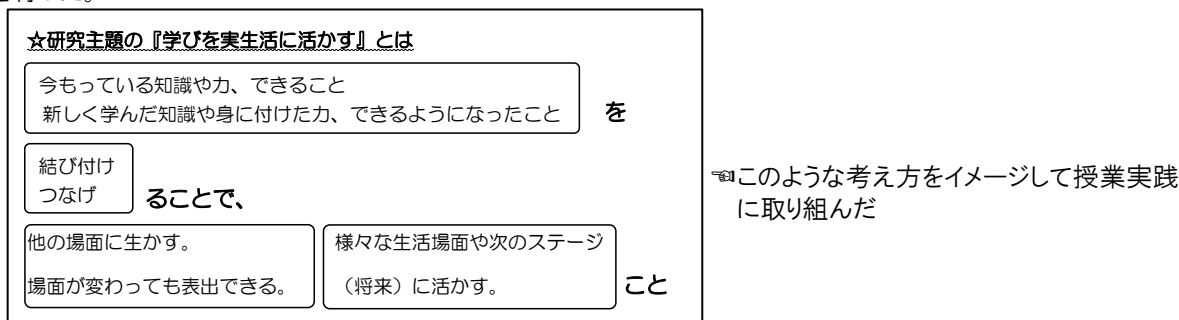
- ・他者と話し合う、協力し合う
- ・場に合った言葉遣い、表現方法
- ・聞く態度(場の雰囲気壊さない等)
- ・他者を思いやる
- ・積極的に取り組む
- ・発表の経験を重ねる
- ・相手に伝わるように表現する
- ・困ったときに助けを求める
- ・アドバイスを受け入れる

- ・生活経験の拡大
- ・会話、質問の幅の増大
- ・時間やチャイムを意識して行動する
- ・獲得語彙を増やす

- ・身だしなみ、衣服の調節
- ・食事のマナー
- ・体力向上、姿勢の保持
- ・ボディイメージ(歩き方等)
- ・自分でできることを増やす(一人での活動場面を増やす)
- ・イライラしたときの対処法を見つける。気持ちの安定
- ・集中できる時間を増やす

(2) 授業実践

教師間で共有した『身に付けたい力・目指す姿』を意識しながら授業実践を行った。特に、「みる・聞く・話す(伝える)」「集団の中で自分の役割に取り組む(取り組もうとする)」ことに重点をおいて授業実践、振り返り、改善を行った。



(3) 研究方針(1年次)

- ① 「学びを生活に生かす授業づくり」「目指す姿」の共通理解を図る。
- ② 個々の実態を把握し、どんな力をつけさせたいか仮説を立てる。
- ③ 仮説に沿って小学部・中学部ごとに授業実践を行う。
- ④ 授業を通して、小学部・中学部ごとに検討した「学びを生活に生かす授業づくり」についての指導や支援方法を検証し、評価・改善する。

5 2年次目の研究実践

(1) 研究方針

- ア 1年目の実践成果・課題を基に仮説を継続し、実践する。
- イ 小・中の連携を図る。授業を見合う機会や学習会を設定する。
- ウ 2年次研究の成果と課題のまとめ。

1年次研究で『学びを生活に活かす』ことについては、児童が今もっている知識や能力に、新しく学習した知識や身に付けたことを結び付たり、つなげたりすることで場面が変わっても表出できるようになると考えた。その中で課題が他者と関わるときの態度(聞く、話す等)であった。また、教師間で共有した課題が《みる・聞く・話す(伝える)》《集団の中で自分の役割に取り組む(取り組もうとする)》の2つであった。1年次研究での課題2つを2年次研究の柱とし、①授業の導入部分で「みる・聞く・話す(伝える)」(図1)を提示する。②振り返りの時間を設定することを年間通して普通の授業の中で実践した。また、研究授業の中で「集団の中で自分の役割に取り組むこと」を意識した授業づくりを千厩分教室小学部・中学部ともに検討し、指導案を作成し、授業研究会の中で意見を出し合い、有効であった声掛け、場面設定、支援方法等を共有した。

図1



(2) 授業実践

昨年度の研究授業での小学部では、①役に立っている(達成感を味わう)という自覚②自己評価(振り返りの工夫)③気持ちの切り替え方④中学部とのつながりの課題があげられた。中学部では、①対応する力②生徒の気付き③生徒の興味・関心④教師の支援の工夫⑤環境整備の5点があげられた。(図2)

この課題の中から、『豊かな学び』や『学びを実生活に活かす授業づくり』につながる課題を精選し、この課題を意識した研究授業の実践を行った。(図3)

図2

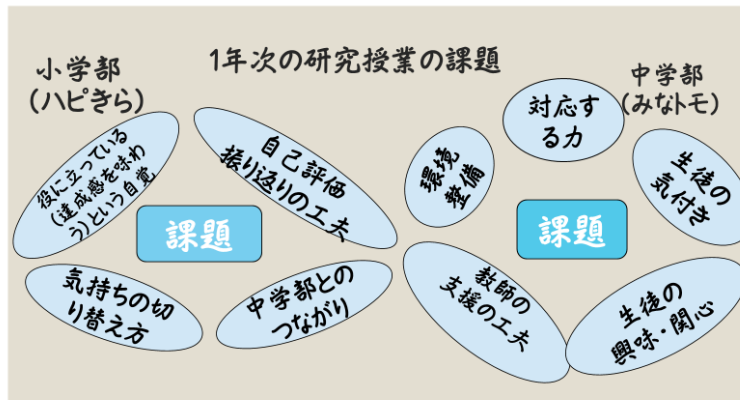
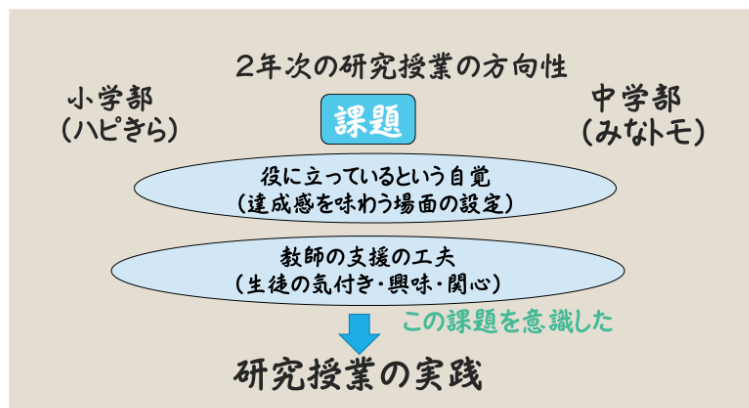


図3



(3) 研究授業

小学部(ハピきら) 9月28日(木) 体育「風船バレーボールをしよう」 授業者 皆川桂輔

題材の評価規準を児童の実態に合わせて、確実に達成できる基準に設定した。また、今回の授業のポイントでもある「みる」ことに特化している風船を使用した「風船バレーボール」をあえて題材とした。風船を使った理由は「ゆるやかな落下」と「色」である。ゆるやかな速度で落下する風船は、素早い動きができない児童にも反応することが可能である。打ち返すことで達成感が得られるため、運動することによって前向きになれる。また、カラフルな風船が明るい気分を引き立て、カラーセラピーの効果も期待できると言われている。

授業の後半に行った全員で輪になってパスする練習は、更に落下速度の遅い大きな「ジャンボバルーン」(サイズ90cm)を使用した。

題材の評価基準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
風船バレーボール	①風船をよくみて、手に当てることができたか。 ②風船を相手にパスすることができたか。	①友達や教師の名前を呼んで、風船を打ったり、パスしたりすることができたか。	①授業の準備や片付けを自らすすんで行うことができたか。 ②簡単なルールを守ることができたか。

指導上の留意点として、①教師は、「いいね」「Good」等、前向きな声掛けを意識すること②「みる・聞く・話す(伝える)」の提示③準備や片付けをした児童をみんなの前で発表し、大きく称賛する。の3つを職員間で共有し、意識し合い実践した。

展開(45分)

時間	学習内容・活動	指導上の留意点	評価規準
導入 10:40	0 準備物を持ち、体育館へ集合する 1 挨拶をする ・学習の始まりを知る 2 本時の学習内容を知る ・学習の見通しをもつ	☆教師は、「いいね」「Good」等、前向きな声掛けを最後まで意識する。 ・T1は児童に並ぶよう声がけをする。 ・準備を手伝ってくれた児童をみんなの前で発表し、みんなで称賛する。 ・T1は児童を一人指名し、号令をかける。 ・T2～は当番に注目するように促す。 <u>みる・聞く・話す</u> の提示 ・ホワイトボードに活動内容が書かれたマグネットを貼り、活動に見通しをもつことができるようにする。	【思判表①】行動の観察 【知技①】行動の観察 【主体的①】行動の観察

【児童の変容】

授業全体を通して、場面が変わるごとに「みる・聞く・話す」ということを提示した。児童からも自然に「みる・聞く・話す」という言葉が出てきた。「みる・聞く・話す」を教師が伝えることで顔が上がり、注目する力や集中力も高まった。また、児童の動きが止まったり、静かにしようとする姿が見られたり、何をすればよいか分かり自ら行動したりしていた。

また、教師の前向きな声掛けやみんなの前で大きく称賛した際には、児童は照れくさそうな表情や恥ずかしそうな態度をとっていたが、授業の流れをみて、次の行動がはやくなったり、率先して片付けを行ったりしていた。ふりかえりの時間では、「できた」という意思表示をはっきり示すことがほとんどの児童ができていた。

(4)学部研究会

<p>授業研究会 10月25日(金) 15:50~16:40 ハピきら教室</p>					
<p>* 授業者から 小学部(ハピきら) 題材の評価規準を児童の実態に合わせて、確実に達成できる基準に設定した。また、今回の授業のポイントでもある「みる」ことに特化している風船を使用した「風船バレーボール」をあえて題材とした。今回、注目してもらおうのは6年生の男子2名である。来年度は2人とも中学部(みなトモ)に進学予定である。O・Hくんは自閉症スペクトラムで、色々なことが気になる児童です。扉が開いていたり、壁や消火栓の扉などにタッチしたりと強いこだわりがみられる。その児童が体育の中で、風船をよく見て、手に当てて教師と一緒にパスができるか、また、最後まで準備や片付けができるかがポイントである。また、T・Hくんはダウン症の児童です。じっとしていることが苦手な児童ですぐに座り込んでしまいます。この児童も風船をよく見て、手に当てることができるか、また教師の促しや支援で準備や片付けができるかも注目してほしい。</p> <p>中学部(みなトモ) 「ダンス」は好きな生徒が多い題材であり、タブレットを活用して振り付けを考えるという授業を組み立てた。4月から生徒達の様子をみていて、粗大運動が難しいということを感じていた。体育の授業で行っている10分ダンスや様々な活動を通して、色々な動きができるようになってきている。</p> <p>今回対象生徒としたT・Sさんは、普段から下を向いていることが多く、発言の場では自分から発言することが少ない。今回は「話す(伝える)」を重点に、自分で考えた振り付けを発表したり、同じグループの生徒に対して感想などを発言したりできるようにしたいと考え、適宜声をかけたり、場の設定を工夫するなどの支援をした。</p>					
<p>* 協議</p>					
<p>協議の柱</p>	<table border="1"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <p>小学部(ハピきら) ・「見る・聞く・話す(伝える)」を意識した授業 ・役に立っているという自覚(達成感を味わう場面の設定)</p> </td> <td style="vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> ・日常生活においても学校全体で「見る・聞く・話す」を子ども達に伝えながら過ごしたことで児童の口からも「見る・聞く・話す」(今は見る時間・今は聞く時間)ができた。意識することができたように思う。 ・身振りと一緒に発声(伝える)様子が増えてきた。 ・授業中も「見る・聞く・話す」を伝えることで何をすればよいか伝わることもあった。単語も短いのでキーワードとしても良かった。 ・言葉の練習になることもあったが、それも含めて学びの時間になったと思う。 ・学習時間以外にも期待感をくちにししたり、家庭でも〇〇が楽しみなど話したりする機会が増えた。 ・振り返りの時間が設定されることで、自分も発表したいという気持ちをもって活動していた。 </td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <p>中学部(みなトモ) ・「見る・聞く・話す(伝える)」を意識した授業 ・教師の支援の工夫(生徒の気付き、興味・関心)</p> </td> <td style="vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> ・友達の発表を見る、教師や動画の手本を見るなど、授業全体として見る場面を多く設けることができた。 ・顔を上げて終始見ていることができる生徒が多かった。 ・グループで話し合いをする場面では、良かったところを伝えようと他の生徒の発表をよく見て、自分の考えを伝えることができた。 ・振りを考えたり確認したりする場面では、タブレットや写真カード、ホワイトボードを使って生徒の考えを視覚的に見やすいようにした。 ・グループ全員が発言できるよう話し合いの時間を確保した。 ・教師は生徒が発言したいサイン(手を少し動かす)を見逃さず、発言を促した。 ・単元の終わりに発表会を設定し、意欲的に取り組めるようにした。 ・「ジャンボリミッキー」など、生徒が興味のあるステップを用意した。 </td> </tr> </table>	<p>小学部(ハピきら) ・「見る・聞く・話す(伝える)」を意識した授業 ・役に立っているという自覚(達成感を味わう場面の設定)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活においても学校全体で「見る・聞く・話す」を子ども達に伝えながら過ごしたことで児童の口からも「見る・聞く・話す」(今は見る時間・今は聞く時間)ができた。意識することができたように思う。 ・身振りと一緒に発声(伝える)様子が増えてきた。 ・授業中も「見る・聞く・話す」を伝えることで何をすればよいか伝わることもあった。単語も短いのでキーワードとしても良かった。 ・言葉の練習になることもあったが、それも含めて学びの時間になったと思う。 ・学習時間以外にも期待感をくちにししたり、家庭でも〇〇が楽しみなど話したりする機会が増えた。 ・振り返りの時間が設定されることで、自分も発表したいという気持ちをもって活動していた。 	<p>中学部(みなトモ) ・「見る・聞く・話す(伝える)」を意識した授業 ・教師の支援の工夫(生徒の気付き、興味・関心)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の発表を見る、教師や動画の手本を見るなど、授業全体として見る場面を多く設けることができた。 ・顔を上げて終始見ていることができる生徒が多かった。 ・グループで話し合いをする場面では、良かったところを伝えようと他の生徒の発表をよく見て、自分の考えを伝えることができた。 ・振りを考えたり確認したりする場面では、タブレットや写真カード、ホワイトボードを使って生徒の考えを視覚的に見やすいようにした。 ・グループ全員が発言できるよう話し合いの時間を確保した。 ・教師は生徒が発言したいサイン(手を少し動かす)を見逃さず、発言を促した。 ・単元の終わりに発表会を設定し、意欲的に取り組めるようにした。 ・「ジャンボリミッキー」など、生徒が興味のあるステップを用意した。
<p>小学部(ハピきら) ・「見る・聞く・話す(伝える)」を意識した授業 ・役に立っているという自覚(達成感を味わう場面の設定)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活においても学校全体で「見る・聞く・話す」を子ども達に伝えながら過ごしたことで児童の口からも「見る・聞く・話す」(今は見る時間・今は聞く時間)ができた。意識することができたように思う。 ・身振りと一緒に発声(伝える)様子が増えてきた。 ・授業中も「見る・聞く・話す」を伝えることで何をすればよいか伝わることもあった。単語も短いのでキーワードとしても良かった。 ・言葉の練習になることもあったが、それも含めて学びの時間になったと思う。 ・学習時間以外にも期待感をくちにししたり、家庭でも〇〇が楽しみなど話したりする機会が増えた。 ・振り返りの時間が設定されることで、自分も発表したいという気持ちをもって活動していた。 				
<p>中学部(みなトモ) ・「見る・聞く・話す(伝える)」を意識した授業 ・教師の支援の工夫(生徒の気付き、興味・関心)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の発表を見る、教師や動画の手本を見るなど、授業全体として見る場面を多く設けることができた。 ・顔を上げて終始見ていることができる生徒が多かった。 ・グループで話し合いをする場面では、良かったところを伝えようと他の生徒の発表をよく見て、自分の考えを伝えることができた。 ・振りを考えたり確認したりする場面では、タブレットや写真カード、ホワイトボードを使って生徒の考えを視覚的に見やすいようにした。 ・グループ全員が発言できるよう話し合いの時間を確保した。 ・教師は生徒が発言したいサイン(手を少し動かす)を見逃さず、発言を促した。 ・単元の終わりに発表会を設定し、意欲的に取り組めるようにした。 ・「ジャンボリミッキー」など、生徒が興味のあるステップを用意した。 				
<p>* 助言(佐々木副校長) ・普段の授業の中で「見る・聞く・話す(伝える)」ということは、当たり前であるが、その当たり前前が「学ぶ」ことにおいて基礎基本となる。今回の研究会で共有できて良かった。</p> <p>・児童生徒が「何ができるようになったか」という視点や見取りをしっかりと行い、記録する。この繰り返しがもっとも重要である。そして児童生徒・保護者にいつでも提示できるようにしておくことが大切である。</p> <p>・児童生徒一人一人の実態を的確に把握して、グルーピングや課題の提示などがなされていた。また、課題解決のための手立てが一人一人に合っていた。</p>					

(5) 指導の経過

1 年次目の研究では、「学びを生活に生かす」ことを、児童生徒が今持っている知識や能力に新しく学習した知識や身に付けたことを結び付けたり、つなげたりすることで場面が変わっても表出できるようになると考えた。この力を身に付けるための課題として①他者と関わるときの態度「みる・聞く・話す(伝える)」②集団の中で自分の役割に取り組む」の2つがあげられた。

2 年次目の研究では、「学びを生活に活かす授業づくり」として 1 年次目の課題を根本に授業導入部分に「みる・聞く・話す(伝える)」を入れること、そして授業の終わりに「振り返り」を入れた授業づくりを全員で実践した。また、研究授業で、《集団の中で自分の役割に取り組む(取り組もうとする)》を意識した場面設定や意図的なしかけをつくることを指導案の作成段階から研究部と授業者を中心に検討し、学部研究などで情報を共有した。

授業の前には指導案に全員が目を通すようにと指導案を学校用の教師間メールに添付し、指導・支援の意図や意思の共有を図ることに努めた。学部研究会では、小学部(ハピきら)・中学部(みなトモ)の授業の様子を見合い、児童・生徒の実態把握やそれぞれの課題を意識した意見交換がなされた。最後に全員にアンケートをとり、研究のまとめとした。

<研究まとめアンケート 児童生徒の変容>

☆みる・聞く・話す(伝える)の効果

- ・「みる・聞く・話す(伝える)」の定着を図ることで活動内容や目標、約束など今自分が何をやるのかを分かって行動できるようになった。分かっているという自信から行動したり(主体性)、目標を達成しようと頑張ったりする姿(意欲)が増えた。(ハピきら)
- ・「みる」ポイントを教師が提示したり、声掛けしたりすることで生徒が注目しやすく教師が称賛しやすかった。よって良い雰囲気授業を進められた気がした。「ここを見て!」→「そう! それ! さすがだね!」という良い流れ(声掛け)が授業の中で何度も行うことができた。(みなトモ)
- ・「みる・聞く・話す(伝える)」に触れながら授業するには、教師が授業のポイントやねらいを自覚しやすく、授業準備のときには授業が組み立てやすかったように感じた。(みなトモ)
- ・日常生活においても学校生活全体で「みる・聞く・話す(伝える)」を児童に伝えながら過ごしたことで子どもたちの口からも「みる・聞く・話す(伝える)」(今はみる時間、今はきく時間)ができた。(ハピきら)
- ・児童・教師ともに意識することができたように思う。(ハピきら)
- ・単語も短いのでキーワードとして良かった。(ハピきら)
- ・授業導入時に毎回伝えることで「何を言われるか」「何をやるか」が分かって話を聞いている様子だった。(ハピきら)
- ・教師が「見ます」→児童の顔をあげる。教師「聞きます。」→顔があがり、静かになる。など継続して取り組むことで「みる・聞く」の態度が身に付いてきたように感じる。(ハピきら)
- ・自分から、話す人に注目することが多くなった。(ハピきら)
- ・身振りと一緒に発声する(伝える)様子が増えてきた。(ハピきら)
- ・「みる・聞く・話す(伝える)」は生徒の評価や振り返りが簡単に行うことができる視点であると感じた。とても良かった。(みなトモ)
- ・「みる」って本当に大事なと改めて感じることもできた。「みる」ことで意欲的になったり、こちらが求めている動きをしてくれて称賛につながったり、色々なことを覚えていたり、まず、「みる」(注目する)って色々なことの基礎のように感じた。小学部のうちから鍛えていると、中学部や高等部で活動の幅が広がっても対応していけるのではないかと感じた。(みなトモ)
- ・「みる・聞く」を繰り返すことで、学習時間以外にも期待感を口にしたり、家庭でも〇〇が楽しみなどと話したりすることが増えた。(みなトモ)
- ・授業の活動の中で、自分が特にどの活動を頑張るかを定めることができなかった生徒が、自分で考えて頑張ることを決めたり、振り返りで頑張ったことを発表したりすることができるようになった。友達の発表をみたり聞いたり、自分が実際に話す経験を繰り返すことで、できるようになったと感じた。(みなトモ)

☆振り返りの効果

- ・振り返りの時間をどの学習でも設定することで、「授業で何をやったのか」「何を頑張ったのか」「何が良かったのか」「どんな気持ちだったのか」などを振り返ることが定着してきた。(ハピきら)
- ・振り返りの時間がいつも設定されていることで「自分も発表したい」という気持ちをもちながら活動していた。発表の際、それぞれの課題を意識しながら行うことで少しずつ上手に発表できるようになってきた。言葉でなく選択・近づく・注視などで伝える児童についての理解にもつながった。(ハピきら)
- ・言葉の練習になることもありましたが、それも含めて学びの時間になったと思う。また、振り返りがあるものとして児童が取り組んでいたのも良かった。(ハピきら)
- ・学習の時間内に振り返ることが有効で、学習したことを身に付けたり、覚えたり、次につなげたりすることができた。活かすことができた。(ハピきら)

☆集団の中での自分の役割に取り組む効果

- ・視覚的に自分の役割が示してあると、自覚しやすく、分かって行動できる。(ハピきら・みなトモ)
- ・教師が全体で称賛したり、個別に称賛したりすることで本人の自覚が芽生え、自分の役割を果たそうとする姿がみられた。(ハピきら)
- ・他の友達が準備や片付けをやっている姿をみて、一緒に行動できた。(ハピきら)

6 実践のまとめ

(1) 成果

- 「みる・聞く・話す(伝える)」の定着を図ることで、「今、自分が何をするのか」を分かって児童生徒が行動できるようになった。
- 「みる・聞く・話す(伝える)」という単語がキーワードとして短く、児童・生徒が注目しやすく教師も称賛しやすかった。
- 日常生活においても学校生活全体で「みる・聞く・話す(伝える)」を児童生徒に伝えながら、児童生徒・教師ともに意識することができた。
- 「みる・聞く」を繰り返し積み重ねることで、学習時間以外にも期待感を口にしたり、家庭でも〇〇が楽しみなどと話したりすることが増えた。
- 振り返りの時間をどの学習でも設定することで、「授業で何をやったのか」「何を頑張ったのか」「何が良かったのか」「どんな気持ちだったのか」などを振り返ることが定着した。
- 言葉でなく選択・近づく・注視などで伝える児童についての理解にもつながった。
- 学習の時間内に振り返ることが有効で、学習したことを身に付けたり、覚えたり、次につなげたりすることができた。活かすことができた。
- 全体で称賛したり、個別に称賛したりすることで、集団の中で自分の役割を自覚して、最後まで取り組むことができた。
- 視覚的な指示を継続することで自分の役割を果たす児童生徒が多かった。
- 教師の支援方法を共有し、意図をもって授業づくりを行った。
- 周りの良い影響が広がり、主体的な行動につながる。

(2) 課題

- 「みる・聞く・話す(伝える)」を目標とするのか、約束とするのか、それとも注意事項なのか、授業の取り入れ方について、最初の学部研での共通認識は必要だった。
- 「みる・聞く・話す(伝える)」、「振り返り」、「集団の中で自分の役割に取り組む力」の課題に取り組み、徹底することで「学びを実生活の中で活かす力」につながるとしたが、場所や場面が変わっても学んだことを表出できるよう

な力の本当に基礎基本の部分にあたると感じた。さらに表出となると人とのコミュニケーション能力や適応能力も必要であると感じた。

- 小学部・中学部卒業を意識した授業実践や中学部・高等部とのつながりを意識した授業について継続的に考えていく。

(3) 終わりに

本研究では、「学びを実生活に活かす授業づくり」～子どもの次のステージを想像して～というテーマのもと2年間、研究をすすめてきた。「児童生徒が興味や関心をもち、意欲的かつ主体的に授業に取り組む」ことや「学びを実生活に活かす」ためには、「みる・聞く・話す(伝える)」や「集団の中で自分の役割に取り組む(取り組もうとする)」ということが重要であると言える。「みる・聞く・話す(伝える)」は学校でも実生活でも必要となる資質・能力である。この基礎基本となる資質・能力が場所や場面が変わっても表出できることが実生活に活かすことができる学びであると言える。

授業の導入部に「みる・聞く・話す(伝える)」を提示したことの効果は、児童生徒が見通しをもって行動できること、内容が分かって行動できること、聞く姿勢や体制が整うこと、教師側としては、聞いてほしいポイントを絞って話せること、評価につながるものがあげられる。「振り返り」の効果は、児童生徒の「発表したい」という意欲につながる、覚えたこと、身に付けたことを確認することができること、話す(伝える)この機会を確保できることがあげられる。学習の時間内の振り返りで、自分が頑張ったことを確認したり、称賛されたりすることで、次、または別の場面でも力を発揮することができるようになった。そもそも振り返りをするのが難しい児童にとっては、学習で取り組んだことを次また違う場面で思い出して活動できたとしたら、その学習自体が振り返りとなっている場合もある。小学部段階での振り返りでは、このパターンがよくあるように思う。

また、研究授業で「集団の中で自分の役割に取り組む」ことを意識した指導案を作成し、小学部(ハピキラ)中学部(みなトモ)共に取り入れて実施した。その中で、全体で称賛することで自分の役割を強く自覚するという効果があった。その場では、恥ずかしがったり、照れくさそうな態度をしたりしていても授業終了時の片付けや次の授業での準備への取り組み方が意欲的でそれが周りにも影響し、全体に良い効果が生まれた。また、視覚的に役割を示すことで責任をもって最後までやり遂げる姿が多く見られた。

今回の千厩分教室の研究は、研究のための研究ではなく普通の授業での取り組みが研究につながる形とした。今回の「みる・聞く・話す(伝える)」や「振り返り」の大きな効果は、千厩分教室の多くの教師が感じたことがアンケートからも分かった。今後も、児童生徒の次のステージや将来をいつもイメージして授業づくりや自己研究に努めていきたい。

参考文献

- ・中央教育審議会(2021)『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たち可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～(答申)』
- ・千葉大学教育学部研究紀要(2021)『知的障害特別支援学校における「深い学び」の検討 ―各教科等を合わせた指導におけるエピソード記録から―』